

# ECOLOGY



## トヨタは、トータルクリーンをめざしています。

「トータルクリーン」を基本理念に、人と地球にやさしいクルマづくりを進めています。生産から廃棄にいたるトータルライフの視点により、環境への取り組みのひとつひとつをすべての過程で連携させ、クリーンなクルマづくりをめざします。さまざまな環境目標を、バランスを取りながら達成し、総合的に環境性能の向上を図ります。

\*1. Eco-VAS[エコバス]:Eco-Vehicle Assessment System。車両開発責任者が企画段階で生産、使用、廃棄にいたるLCA(ライフサイクルアセスメント)の考え方を踏まえた環境目標値を設定。全開発プロセスを通じて目標達成状況をフォローして、確実な達成を図る総合的な環境評価システム。

## 地球温暖化を防ぐために

**燃費向上** 温室効果ガスであるCO<sub>2</sub>排出量の低減をめざして、Dual VVT-i、6速オートマチック(6 Super ECT)などの採用により、全車で徹底した燃費の向上を図りました。

**省冷媒化** エアコンの冷媒には、オゾン層を破壊しない代替フロンHFC-134aを採用しています。

## 都市環境のクリーン化のために

**排出ガスのクリーン化** 高性能の三元触媒や空燃比補償装置などを採用。全車とも「平成17年基準排出ガス50%低減レベル」の認定を国土交通省より取得しています。



## リサイクル性向上のために

**リサイクル性に優れた材料の使用** 樹脂部品では、リサイクル性に優れた素材TSOP\*2を採用しています。\*2. TSOP:Toyota Super Olefin Polymer

**解体性の向上** 解体性向上マークを大物部品に設定し、取り外し性の向上を図っています。

## 環境負荷物質を削減するために

**環境負荷物質の削減** 鉛、水銀、カドミウム、六価クロムを削減し、業界自主目標を達成しています。

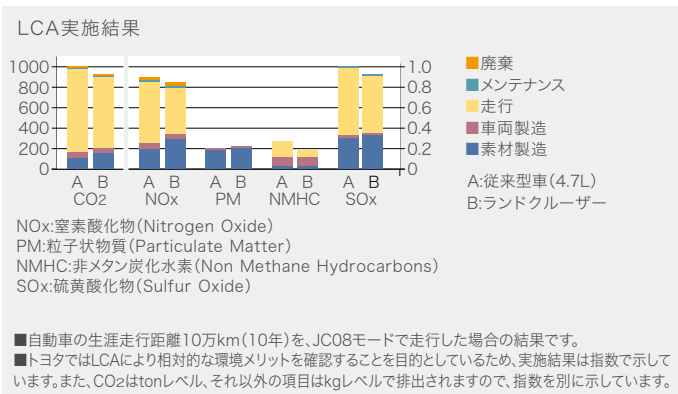
**VOC\*3の低減** 内装部品の素材、加工法、接着剤の見直しにより、揮発性有機化合物(VOC)の発生量を抑制し、車室内の臭いや刺激臭を軽減するなど、業界自主目標を達成しています。

\*3. VOC:Volatile Organic Compounds

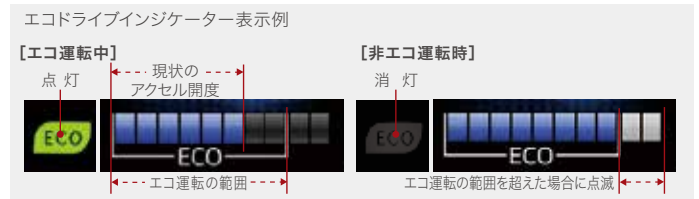
## ライフサイクルで環境負荷を低減

**LCA\*4の実施** 走行段階だけでなく、生産から廃棄までのライフサイクルで排出する大気汚染物質の総量を従来型車に比べて低減しています。

\*4. LCA[ライフサイクルアセスメント]:Life Cycle Assessment。資源採取から廃棄、リサイクルまでの各段階で、クルマが環境に与える要因を定量化し、総合評価する手法で、ISO14040シリーズで国際標準化されています。



**エコドライブインジケータ** エコ運転中を知らせるエコドライブインジケータランプに加えて、現状のアクセル開度とエコ運転の範囲を表示するエコドライブインジケータゾーン表示を装備しています。



## トヨタ ランドクルーザー環境仕様

車両仕様		CBA-URJ202W	
エンジン	型式	1UR-FE	
	総排気量(L)	4.608	
	燃料	ガソリン(プレミアム)	
	駆動装置	4輪駆動	
変速機	6AT		
車両重量(kg)	2,410~2,510	2,520~2,730	
燃料消費率	JC08モード*1	6.9	6.7
	(国土交通省審査値)(km/L)	CO <sub>2</sub> 排出量(g/km)	336
排出ガス	認定レベル値	CO 1.15	
	または適合規制値	NMHC 0.025	
		NO <sub>x</sub> 0.025	
車外騒音(加速/定常/近接)dB	75/71/85		
	冷媒の種類(GWP値*4)/使用量(g)	HFC-134a(1,430*5)/デュアルエアコン:920(クールボックス装着車970) シングルエアコン:770	
環境負荷物質削減	鉛	自工会2006年自主目標達成(1996年比1/10以下*6)	
	水銀	自工会自主目標達成(2005年1月以降使用禁止*7)	
	カドミウム	自工会自主目標達成(2007年1月以降使用禁止)	
	六価クロム	自工会自主目標達成(2008年1月以降使用禁止)	
車室内VOC	自工会自主目標達成(厚生労働省室内濃度指針値*8以下)		
リサイクル関係	リサイクルし易い材料を使用した部品	(TSOP)	フロントバンパー、リヤバンパー、カウルルーバー、ピラーガーニッシュ、インストルメントパネル、デッキサイドトリム、バックドアトリムなど
	リサイクル材の使用	(TPO*9)	ルーフモール、ベルトモール、フロアマット、ドアトリム表皮、アシストグリップ
樹脂、ゴム部品への材料表示	フロアサイレンサー あり		

※1. 燃料消費率は定められた試験条件のもとでの値です。お客様の使用環境(気象、渋滞等)や運転方法(急発進、エアコン使用等)に応じて燃料消費率は異なります。 ※2. JC08モード走行。 ※3. 平成17年基準排出ガス50%低減レベル。 ※4. GWP:Global Warming Potential(地球温暖化係数) ※5. フロン法において、カーエアコン冷媒は、2023年度までにGWP150以下(対象の乗用車における国内向け年間出荷台数の加重平均値)にすることを求められております。 ※6. 1996年乗用車の業界平均1,850g(バッテリーを除く)。 ※7. 交通安全の観点で使用される部品(ナビゲーション等の液晶ディスプレイ、コンビネーションメーター、ディスプレイランプ、室内蛍光灯)を除く。 ※8. 厚生労働省が2002年1月に定めた指定物質で自動車に関する物質の指針値 ※9. TPO:Thermo Plastic Olefin



トヨタが乗用車を対象に実施しているLCAの手法は、ドイツの第三者認証機関デュフ ラインランドによるISO14040/14044規格に基づく審査・認証を受けました。